◎ テキストの特色 ◎

- まず，５年一学期で学習したことがらをきちんと復習し，次に，二学期で学習する主な単元を先取り学習します。その上で，発展的な問題をじょじょに学習できるようにしました。
- このテキストの各講座は，おもに４ページ構成です。各講座とも，要点の整理→要点チェック→練習問題の構成となっています。
- 「要点チェック」は空らんをことばでうめる形式になっています。ここで基本事項を身につけて下さい。「練習問題」で理解不十分なことをチェックして下さい。

も　く　じ

1 稲作のようす …… 2
2 畑作のようす …… 6
3 ちく産のようす …… 10
4 農業生産を高めるくふう …… 14
5 日本の農業の特色 …… 18
6 日本の水産業 …… 22
7 これからの水産業 …… 26
8 食生活の変化と食料生産 …… 30

1　稲作のようす

◑ 学　習　内　容
① 稲作のくふう
② 稲作のさかんな地域

要点の整理

1　日本の稲作

米づくりは日本の農業の中心となっており，日本の耕地面積の約半分が田である。また農業全体の産出額でも，米は大きな割合をしめている。

＜米づくりのさかんな理由＞

①田植えをする時期が梅雨（雨が多い）となり，稲に必要な水が十分得られること，また夏には気温や湿度が高いことなど，日本の気候は稲の生育に適している。

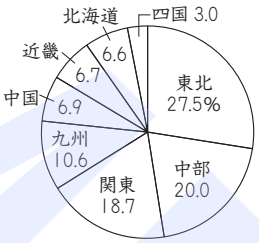
②米は昔から日本人の主食としてさかんに生産されてきた。

③米は日本人の大切な主食なので，国（政府）が生産者から米を買い入れ，消費者に販売する制度（食糧管理制度）をとり，農家を保護していた。

2　稲作のさかんな地域

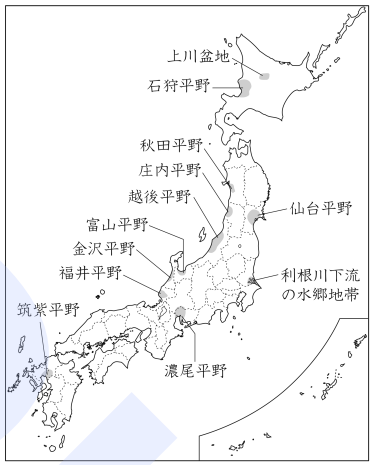
東北地方や北陸地方では冬の寒さが厳しかったり雪が多かったりするため，冬の間はあまり作物をつくることができない。そのため米の単作（同じ土地で1年に1種類だけの作物を作ること）が行われている。全国で生産される米の半分近くがこれらの地方で生産されており，全国に出荷されているので，これらの地方は日本の米ぐら（穀倉地帯）とよばれている。

地方別の米の生産量割合



（2019/20年版「日本国勢図会」より）

稲作のさかんな地域



3　稲作をめぐる問題

＜米の生産調整＞

生産技術の進歩で同じ広さからとれる米の量が増える一方，食生活の変化で米の消費量が減っていき，米が余るようになってきた。あまる米を減らすため，国は1970年から米の生産調整を行い，作付面積をへらして生産量をおさえる減反政策を進めた。

＜転作＞

水田での米づくりをやめて，麦や豆などを作ること。

＜休耕＞

作物づくりをやめて，耕地を休ませておくこと。現在はおこなわれていない。

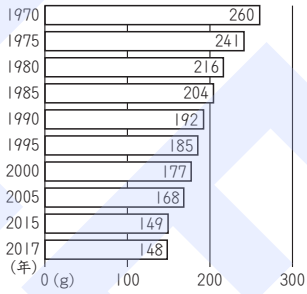
＜食糧管理制度の見直し＞

政府が米を農家から高く買い上げて安く売る食糧管理制度は廃止され，農家が政府を通さずに米を消費者に売ることがみとめられた。

＜米の輸入自由化＞

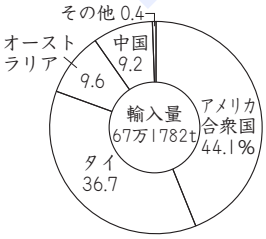
米は日本の農業の中心なので，国は，米の輸入を制限して，国内の農家を保護してきた。しかし世界で貿易を自由に行おうとする動きが強まり，1999年より輸入される米に税金をかける（関税化）ことにより，米の輸入が自由化された。

日本人１人１日あたりの米の消費量



（2019年版「日本のすがた」より）

日本の米の輸入相手国
（2018年）



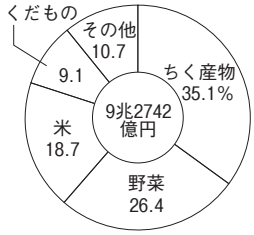
（2019/20年版「日本国勢図会」より）

要点チェック〔(　　)をうめてみよう!!〕

1　日本の稲作

日本の農業では，近年までは作付面積・生産額のどちらも，①（　　）が第1位であった。日本で稲作がさかんなのは，昔から①が日本人の②（　　）であること，夏に高温で③（　　）の多い気候が稲作に適していること，④（　　）が①を買うしくみをとって農家を保護したことなどが理由である。また，農民はさまざまな工夫をして生産を増やしてきた。

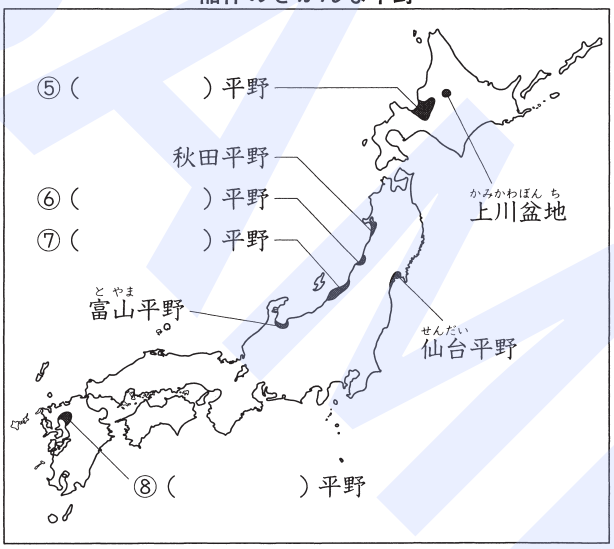
農産物の総産出額割合



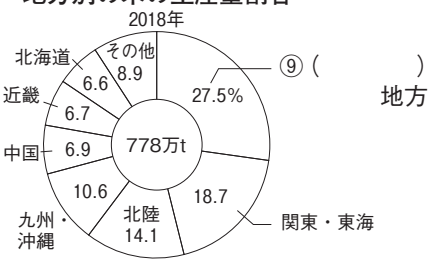
（2019年版「日本のすがた」より）

2　稲作のさかんな地域

稲作のさかんな平野



地方別の米の生産量割合



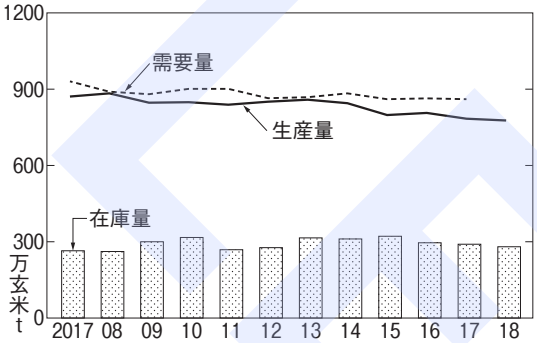
（2019年版「日本のすがた」より）

東北地方や北陸地方は，冬の寒さが厳しく雪が多いため，夏の間だけ米をつくる米の⑩（　　）地帯となっている。また，全国に米を出荷しているので，これらの地方は，⑪（　　）とよばれている。

3　稲作をめぐる問題

1970年代に入ると，日本人の食生活の変化によって，米が余るようになってきた。そこで政府は休耕や⑫（　　）をすすめて，米の作付面積を減らす⑬（　　）政策を行った。また，政府が米を買い上げる⑭（　　）制度が廃止され，米の生産と流通の規制をゆるめる新食糧法が制定された。近年では，アメリカ合衆国などを中心に，米の⑮（　　）自由化を要求する声が高まり，1999年から，米の関税化による，事実上の⑮自由化が始まった。

米の需給の動き



（注）米の在庫は民間流通米と政府米の合計の在庫量です。

（2019/20年版「日本国勢図会」ほかより）

SAMPLE

練習問題

1　**＜稲作のさかんな地域＞**　右の地図を見て，問題に答えなさい。

(1)　米の生産量が多い都道府県名を２つ書きなさい。

（　　）（　　）

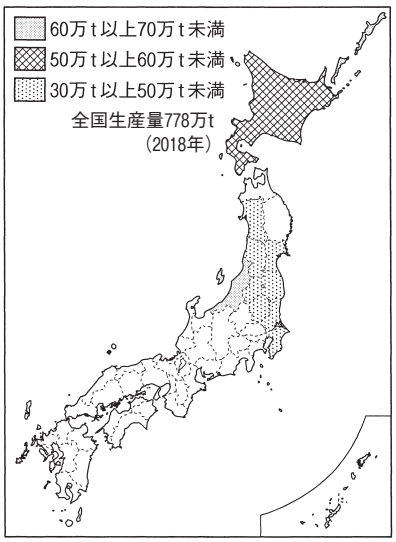
(2)　米の生産量が多い地方を，北海道・関東地方以外で次から２つ選んで，記号で書きなさい。　（　　，　　）

ア　中国地方　　**イ**　北陸地方　　**ウ**　近畿地方
エ　東海地方　　**オ**　四国地方　　**カ**　東北地方

(3)　(2)の２つの地方の稲作のようすを，次から選んで，記号を書きなさい。　（　　）

ア　おもに米だけをつくる水田単作が中心である。
イ　稲作と同じくらい野菜の促成栽培がさかんである。
ウ　米と麦・なたねなどの二毛作がさかんである。
エ　あたたかい気候を利用して，１年に米を２回つくっている。

米の生産量が多い都道府県



（2019年版「日本のすがた」より）

2　**＜各地の稲作のようす＞**　次の文を読んで，問題に答えなさい。

①　最上川の下流に広がる平野で，江戸時代から米の産地として知られていた。
②　クリークとよばれる水路があみの目のように広がる平野で，農業の共同化が進んでいる。
③　農業に向かないでい炭地が広がっていたが，排水工事と客土によって，立派な水田地帯に生まれかわった。
④　日本最長の川の下流に広がる平野で，水はけの悪い低湿地であったが，排水工事によって湿田が乾田にかえられた。

(1)　①～④にあてはまる地域を，右の地図中の**ア～ケ**から１つずつ選んで，記号を書きなさい。

①（　　）　②（　　）　③（　　）　④（　　）

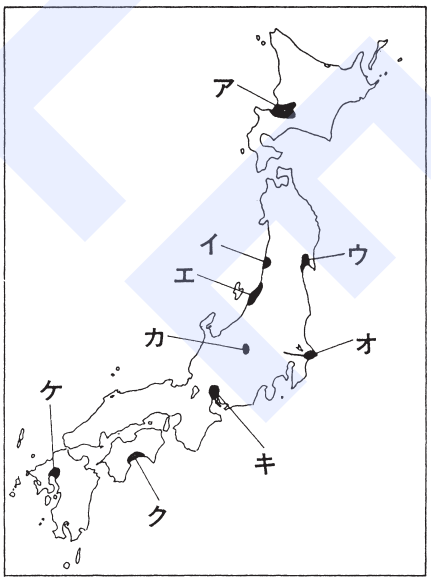
(2)　①～④にあてはまる平野を，次から１つずつ選んで，記号を書きなさい。

ア　筑紫平野　　**イ**　高知平野　　**ウ**　石狩平野
エ　濃尾平野　　**オ**　越後平野　　**カ**　津軽平野
キ　十勝平野　　**ク**　庄内平野　　**ケ**　讃岐平野

①（　　）　②（　　）　③（　　）　④（　　）

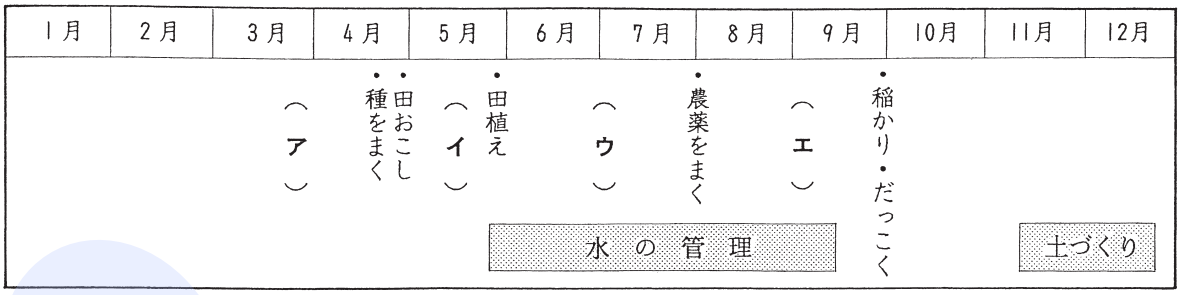
(3)　④の平野で，湿田が乾田にかえられたのはなぜですか。次の文の（　　）にあてはまる言葉を書きなさい。

大型の（　　）を使って，効率よく生産を行うことができるようにするため。



SAMPLE

3 ＜稲作農家のようす＞　次の図は，稲作農家の作業ごよみです。これを見て，問題に答えなさい。



(1)　田に水を入れ，土をくだいてならす作業を何といいますか。また，この作業が行われる時期を図中の**ア**～**エ**から選んで，記号を書きなさい。　　作業（　　）　記号〔　　〕

(2)　稲かり・だっこくのときに利用されるものを次から選んで，記号を書きなさい。

ア　スプリンクラー　　**イ**　田植え機　　**ウ**　トラクター　　**エ**　コンバイン　　（　　）

(3)　水の管理について，7月から8月にかけて特に心配なことは何ですか。次から選んで，記号を書きなさい。　（　　）

ア　雪どけにともなう冷たい水　　**イ**　からつゆにともなう水不足

ウ　何回も田の水を入れたりぬいたりすること

(4)　土づくりについて，最近，化学肥料にかえて，ぶた・牛などのふんとわらをまぜた肥料を田にまいて，土づくりをする農家が増えてきています。このような肥料を何といいますか。

（　　）

4 ＜日本の稲作がかかえるなやみ＞　右のグラフを見て，問題に答えなさい。

(1)　必要な米の量がしだいに減ってきているのはなぜですか。次から選んで，記号を書きなさい。

（　　）

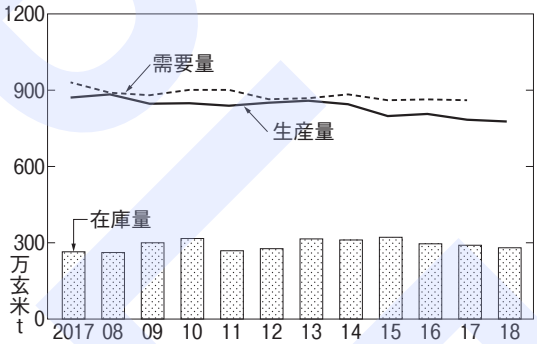
ア　日本人の主食が小麦になったから。

イ　生産した米を輸出に回すようになったから。

ウ　日本人の食生活が西洋化したから。

エ　戦争によって食料事情が悪化したから。

米の需給の動き



(注)米の在庫は民間流通米と政府米の合計の在庫量です。

(2019/20年版「日本国勢図会」ほかより)

(2)　米が余るようになったため，政府は，農家に米以外の作物をつくることをすすめました。これを何といいますか。　（　　）

(3)　1993年は，夏に異常な低温が続いたために，稲が実らず，米の生産量が減りました。東北地方の太平洋側などでおこりやすいこのような自然災害を何といいますか。　（　　）

(4)　1993年の米不足のときに外国から米が緊急輸入され，そののちの1995年からはミニマム・アクセス（最低輸入義務量）による米の輸入が始まり，1999年には米の輸入が自由化されました。日本のおもな米の輸入相手国の組み合わせを，次から選んで，記号を書きなさい。　（　　）

ア　アメリカ・インドネシア・フランス　　**イ**　アメリカ・タイ・中国

ウ　オーストラリア・カナダ・インド　　**エ**　オーストラリア・中国・フランス

SAMPLE

2　畑作のようす

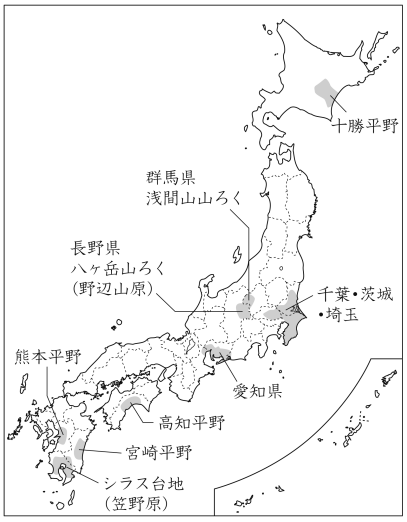
◑ 学　習　内　容
① 野菜づくり
② くだものづくり
③ 工芸作物

要点の整理

1　日本の畑作

畑作は，おもに台地などの水の便がよくないところで行われている。北海道・関東地方・九州地方南部などでさかんである。

畑作のさかんな地域



2　野菜づくり

特色のある気候を生かしてほかの地いきと時期をずらして栽培（さいばい）すると，野菜を高いねだんで売ることができるので日本の各地でいろいろな工夫がされている。

＜促成栽培＞

比かく的温だんな地いきで，ビニルハウスなどを使って，自然にできるより早い時期に出荷する栽培方法。（ピーマン・きゅうり・なすなど）高知平野や宮崎平野がさかんで，おもにカーフェリーやトラックで全国へ出荷している。

＜抑制（よくせい）栽培＞

高原などで行われる，夏でもすずしい気候を利用して，自然にできるより時期をおくらせてつくる栽培方法。（レタス・キャベツ・はくさいなど）八ヶ岳（やつがたけ）山ろくの野辺山原（のべやまはら）（長野県），浅間（あさま）山ろくの嬬恋（つまごい）村（群馬県）などでさかんである。

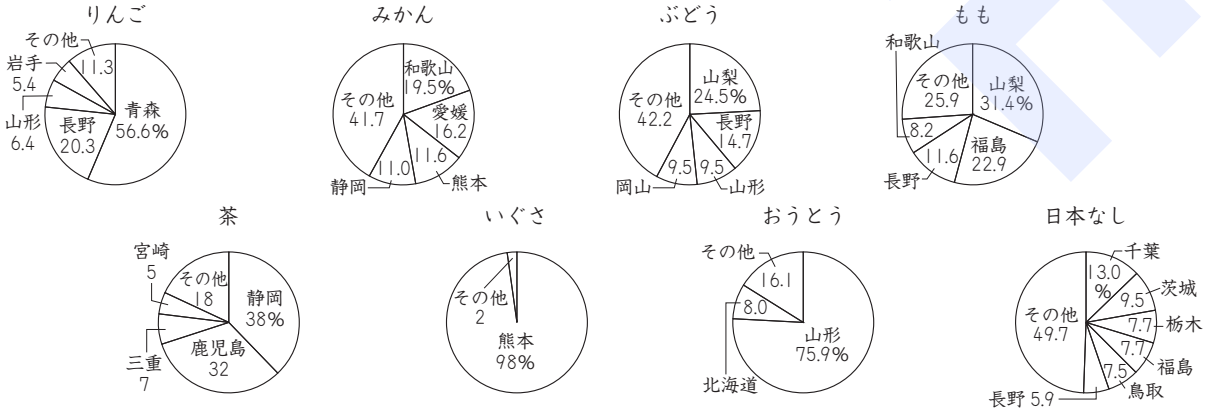
※はくさいの生産量　895t　茨城26%　長野25%　北海道３%

＜近郊農業＞

大量に野菜が消費される大都市に近い地いきでは，野菜を新せんなまま早く運ぶことができることなどから，野菜や草花の栽培がさかんに行われている。東京・大阪・名古屋などの大都市の周辺。特に千葉県，茨城県，埼玉県，愛知県などでさかんである。

3　くだもの・工芸作物づくり

りんご…すずしい気候で，かんそうした土地に適している。
みかん…あたたかい気候で，日当たりのよい土地に適している。
ぶどう…水はけのよい，盆地（ぼんち）の周りの扇状地（せんじょうち）などで栽培がさかんである。
茶…水はけのよい台地などでさかんに栽培されている。



SAMPLE

要点チェック〔(　　)をうめてみよう!!〕

1　日本の畑作

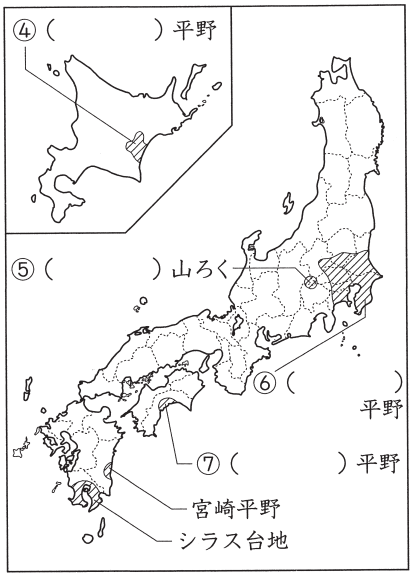
日本人の食生活の変化にともなって，野菜・くだものの生産がさかんになった。畑作は，おもに①（　　）などの水の便がよくないところで行われ，特にさかんな地方は，北海道・②（　　）地方・九州地方南部である。

2017年

野菜	生産量(千t)	おもな産地（%）
だいこん	1325	北海道(13)・千葉(11)・青森(10)
キャベツ	1428	群馬(18)・愛知(17)・千葉(8)
たまねぎ	1228	北海道(65)・佐賀(8)・兵庫(7)
はくさい	880	茨城(28)・③(　　)(27)・北海道(3)
きゅうり	559	宮崎(12)・群馬(10)・福島(7)
にんじん	596	北海道(32)・千葉(17)・徳島(9)
さつまいも	814	鹿児島(36)・茨城(20)・千葉(13)

（2019年版「日本のすがた」より）

畑作のさかんなところ



2　野菜づくり

(1)　高知平野や宮崎平野では，冬でもあたたかい気候を利用して，⑧（　　）や温室で野菜の⑨（　　）栽培（さいばい）を行い，おもに⑩（　　）やトラックで全国へ出荷している。中央高地では，夏のすずしい気候を利用して，⑪（　　）野菜の栽培を行い，高速道路を利用してトラックで全国へ出荷している。どちらも，他の地域での野菜の生産が少ない時期に出荷するので，⑫（　　）値段で売ることができる。

(2)　大都市の周辺では，都市向けの野菜・花などをつくる⑬（　　）農業がさかんである。新せんな野菜を⑭（　　）とどけることができるという利点がある。

3　くだもの・工芸作物づくり

(1)　みかん…⑮（　　）気候で，日当たりのよい土地に適している。

(2)　りんご…⑯（　　）気候で，かんそうした土地に適している。

(3)　ぶどう…水はけのよい，⑰（　　）の周りの扇状地（せんじょうち）などでさかんに栽培される。

(4)　⑱（　　）…水はけのよい台地などでさかんに栽培される。

2017年

農作物	おもな産地
みかん	⑲（　　）・愛媛・熊本
りんご	⑳（　　）・長野・山形
日本なし	㉑（　　）・茨城・栃木
ぶどう	㉒（　　）・長野・山形
もも	山梨・㉓（　　）・長野
⑱	静岡・鹿児島・三重
い草	㉔（　　）・福岡

（2019年版「日本のすがた」より）

練習問題

1　**＜各地の野菜づくり＞**　次の文を読んで，問題に答えなさい。

①　日当たりがよく，水はけのいい斜面を利用して，みかんや茶がつくられている。また，この地方には，石がきを利用した（　　）づくりのさかんな久能山（くのうざん）がある。

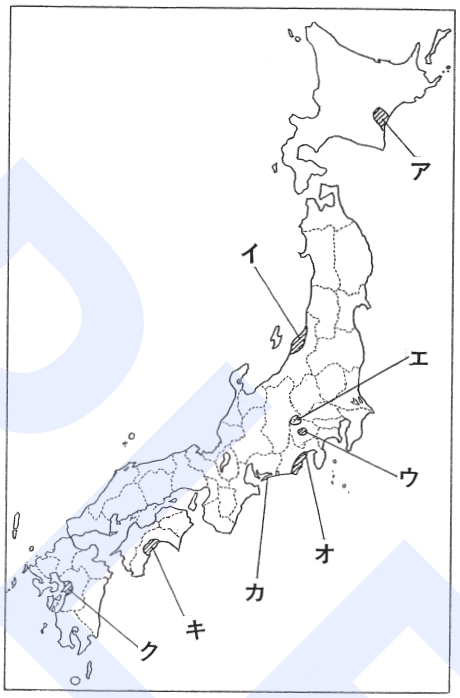
②　この地いきでは，水田の裏作として，（　　）の原料となるい草をつくっており，米よりも高い収益（しゅうえき）をあげている農家もある。

③　むかしは米の二期作を行っていたが，現在は，冬のあたたかい気候を利用して，A野菜の促成栽培（そくせいさいばい）を行い，おもに（　　）やトラックで東京・大阪などへ送り出している。

④　1戸当たりの耕地（こうち）面積が広いので，大型の（　　）を使った大規模（きぼ）な畑作を行い，おもにじゃがいも・てんさい・豆類などを栽培している。

⑤　高原のすずしい気候を利用して，夏から秋にかけてB野菜をつくり，（　　）でいったん冷やした後，保冷トラックで全国へ送り出している。

⑥　水はけのよい，ゆるやかな斜面の（　　）を利用したCぶどう・ももの栽培がさかんで，最近は観光農園も増えている。



(1)　各文中の（　　）にあてはまる言葉を書きなさい。

(2)　①～⑥があてはまる地域を，右の地図中の**ア～ク**から1つずつ選んで，記号を書きなさい。

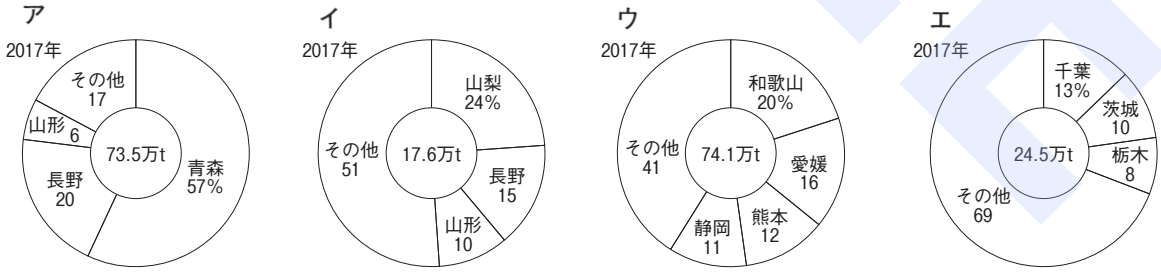
①（　　）　②（　　）　③（　　）
④（　　）　⑤（　　）　⑥（　　）

(3)　下線部A・Bは，それぞれどんな野菜ですか。次から1つずつ選んで，記号を書きなさい。

ア　ねぎ・ほうれん草　　**イ**　キャベツ・レタス
ウ　たまねぎ・トマト　　**エ**　だいこん・たまねぎ
オ　なす・ピーマン　　**カ**　かぼちゃ・にんじん

A（　　）　B（　　）

(4)　下線部Cの全国の生産割合を表しているグラフを，次から選んで，記号を書きなさい。（　　）

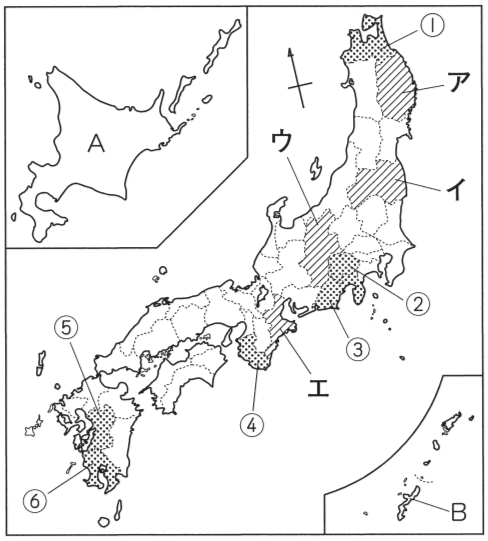


（2019年版「日本のすがた」より）

(5)　③・⑤の地域で行われている野菜づくりには，どのような利点がありますか。次の2つの言葉を使って，かんたんに説明しなさい。　〔時期　値段（ねだん）〕

（　　）

2 ＜各地の畑作＞　右の地図を見て，問題に答えなさい。



(1)　地図中の　で示した①～⑥は，ある農作物の生産量（2017年産）が全国第１位の県です。①はりんごで全国第１位の青森県です。りんごの生産量が全国第２位の県名を書きなさい。また，その県を地図中の**ア～エ**から選んで，記号を書きなさい。

県名（　　）　記号〔　　〕

(2)　③・⑤の県が生産量全国第１位の工芸作物名を書きなさい。

③（　　）　⑤（　　）

(3)　②・④の県が生産量全国第１位の農作物の組み合わせとして正しいものを，次から選んで，記号を書きなさい。（　　）

ア　②―キャベツ，④―パイナップル　　**イ**　②―キャベツ，④―みかん

ウ　②―ぶどう，④―パイナップル　　**エ**　②―ぶどう，④―みかん

(4)　⑥の県が生産量全国第１位の農作物を，次から選んで，記号を書きなさい。（　　）

ア　じゃがいも　**イ**　さつまいも　**ウ**　小麦　**エ**　てんさい

(5)　地図中のＡ・Ｂの道県で行われている畑作の特色を述べた文を，次から１つずつ選んで，記号を書きなさい。　Ａ（　　）　Ｂ（　　）

ア　大都市向けの野菜・花をつくる近郊農業がさかんであるが，しだいに畑が減ってきている。

イ　人手や資金をじゅうぶんにかけた集約的農業が行われ，おもに自給用の作物がつくられる。

ウ　全国平均の約10倍の広い耕地で，大規模な畑作が行われ，専業農家の割合が高い。

エ　電照菊などの花や野菜の露地栽培を行い，冬から春先を中心に，飛行機で出荷している。

3 ＜宮崎平野の野菜づくり＞　右の表はきゅうりの季節別の収かく量を示しています。これを見て，問題に答えなさい。

2018年

冬春きゅうり（12～6月）		夏秋きゅうり（7～11月）	
おもな産地県	収かく量（t）	おもな産地県	収かく量（t）
ア	58,700	**エ**	31,300
イ	34,900	**イ**	20,000
ウ	31,600	**ウ**	14,100
千　葉	25,700	北海道	13,700
高　知	24,400	長　野	12,700
全国計	298,100	全国計	251,800

（農林水産省ホームページより）

(1)　宮崎県にあてはまるものを，グラフ中の**ア～エ**から選んで，記号を書きなさい。ただし同じ記号は同じ県を示しています。（　　）

(2)　宮崎平野の野菜づくりがかかえているなやみとして，まちがっているものを次から選んで，記号を書きなさい。（　　）

ア　同じ畑で同じ野菜を何度もつくることから，連作障害がおこっている。

イ　他の産地との競争がはげしくなってきている。

ウ　大都市から遠いので，輸送費や新せんさを保つための費用が高くつく。

エ　日本人の食生活の変化にともなって，野菜の消費量が大はばに減っている。

解　答　《S小5社会》

1 稲作のようす　2~5ページ

要点チェック

①米　②主食　③雨　④国（政府）　⑤石狩　⑥庄内　⑦越後　⑧筑紫　⑨東北　⑩単作　⑪日本の米ぐら（穀倉地帯）　⑫転作　⑬減反（生産調整）　⑭食糧管理　⑮輸入

練習問題

1　(1)新潟県，北海道　(2)イ，カ　(3)ア

解説 (1)山形県，宮城県，茨城県，がこのあとに続く。北海道は寒冷なので，もともと稲作に向いていなかったが，品種改良やさいばい技術のくふうによって全国有数の米の産地となった。しかし，冷害にみまわれると，生産量が大はばに減少する。1993年の冷害のときには，生産量は前年の半分以下になった。　(2)この2つの地方で全国の約40%をしめている。このほか，東京・横浜などの大消費地をかかえる関東地方や，筑紫・佐賀・熊本平野などで先進的な稲作が行われている九州地方の生産量も多い。　(3)東北・北陸地方は，冬に大雪がふるので，二毛作を行うことができない。

2　(1)①イ　②ケ　③ア　④エ
(2)①ク　②ア　③ウ　④オ　(3)農業機械

解説 (1)①明治時代のなかごろ，馬にすきを引かせて水田を耕す方法を取り入れ，ほかの地域に先がけて水田の区画整理を完成させた。②土地改良事業が進められ，クリークはしだいに減ってきている。④日本最長の川は信濃川。　(3)湿田のままだと，大きなトラクターやコンバインを田に入れることができない。湿田の乾田化は，木曽川下流の輪中地帯や利根川下流の水郷地帯などでも行われてきた。

3　(1)しろかき，イ　(2)エ　(3)イ　(4)たい肥

解説 (1)しろかきは田植えの前に行う。(2)ウは田おこしやしろかきのときに利用される。　(3)農家は安定して水が得られるように努力している。　(4)化学肥料を使うと稲の育ちがよくなり，生産量を高めることができるが，しだいに土地がやせてしまうという欠点がある。

4　(1)ウ　(2)転作　(3)冷害　(4)イ

解説 (1)パンや肉類などの消費量が増えた。(2)麦類・だいず・野菜などに転作する農家が増えたが，水田であったところを畑作に利用するのはかんたんではない。　(3)東北地方のうちでも太平洋側の青森・岩手・宮城県などで収かく量が大きく減る。　(4)関税をはらえば自由に輸入できるようになった。

2 畑作のようす　6~9ページ

要点チェック

①台地　②関東　③長野　④十勝　⑤八ケ岳　⑥関東　⑦高知　⑧ビニルハウス　⑨促成　⑩カーフェリー　⑪高原　⑫高い　⑬近郊　⑭早く　⑮あたたかい　⑯すずしい　⑰盆地　⑱茶　⑲和歌山　⑳青森　㉑千葉　㉒山梨　㉓福島　㉔熊本

練習問題

1　(1)①いちご　②たたみ表　③カーフェリー　④農業機械　⑤予冷庫　⑥せん状地　(2)①オ　②ク　③キ　④ア　⑤エ　⑥ウ　(3)Aオ　Bイ　(4)イ　(5)ほかの地域と時期をずらして出荷するの

で，高い値段で売ることができる。

解説 (1)①第二次世界大戦前から，久能山の南しゃ面でつくられてきた。②近年は，安い中国産のい草との競争がはげしい。③最近は，宮崎平野や房総半島などとの競争がはげしくなっている。④農家1戸あたりの耕地面積が全国平均の約10倍の広さなので，大型の農業機械がふきゅうしている。⑤せん度を保つため，予冷庫（予冷施設）に入れ，4度ぐらいの温度で冷やす。⑥川が山ろくに小石などをたい積させてつくる。むかしは，くわ畑が広がっていたが，しだいに少なくなり，果樹園として利用されるようになった。(2)①静岡県の駿河湾沿岸。②八代平野。③高知平野。④十勝平野。⑤浅間山や八ヶ岳山ろく。⑥甲府盆地。　(4)甲府盆地は山梨県にある。**ア**はりんご，**ウ**はみかん，**エ**は日本なし。(5)高く売れるいっぽうで，市場から遠いため，新せんさを保つための費用がかかる。

2　(1)県名―長野県　記号―**ウ**　(2)③茶　⑤い草　(3)**エ**　(4)**イ**　(5)A**ウ**　B**エ**

解説 (1)長野県のりんごは，青森産のりんごより2週間あまり早く収かくされる。(2)③は静岡県で，牧ノ原などの台地で茶のさいばいがさかんに行われている。　(3)②は山梨県，④は和歌山県。　(4)⑥は鹿児島県。さつまいもは台風やかんばつに強いので，古くからさいばいされてきた。近年は，野菜・茶の生産が増えている。　(5)Aは北海道，Bは沖縄県。沖縄は冬でも大変あたたかいので，だんぼうの費用がいらない。

3　(1)**ア**　(2)**エ**

解説 (1)冬に入荷量が多い。宮崎平野と同じように野菜の促成さいばいがさかんな高知平野のある高知県がヒントになる。きゅうり・なす・トマトのような実を食べる野菜の旬は本来夏である。　(2)野菜の生産量は減っているが，消費量は大はばには減っていない。なお，最近のなやみには，外国産の野菜との競争もある。

3　ちく産のようす　10～13ページ

要点チェック

①小さい　②牧草　③輸入　④ぶた　⑤牛　⑥乳用　⑦肉用　⑧ぶた　⑨肉用若鶏（ブロイラー）　⑩根釧　⑪新らく農村　⑫肉用牛　⑬牛乳　⑭減って　⑮自由化

練習問題

1　(1)A肉用若鶏　Bぶた　C肉用牛　D乳用牛　(2)A**ア**　B**エ**　C**ウ**　D**イ**

解説 (1)A肉用若鶏（ブロイラー）と，たまごを生産するためのにわとり（採卵鶏）とがある。C牛肉の輸入自由化によって，農家は大きな打撃を受けた。D安い外国産のらく農製品との競争がはげしい。　(2)北海道は乳用牛と肉用牛，南九州は肉用牛・ぶた・肉用若鶏（ブロイラー），関東地方は乳用牛とぶたの飼育がさかんである。

2　(1)らく農　(2)根釧台地，**イ**

解説 (1)北海道は大消費地からはなれているので，生産された牛乳は，おもに加工用に出荷される。最近は，保存技術が上がったので，飲むための牛乳の出荷も増えている。(2)根釧台地は，東京・大阪はもちろんのこと，北海道内の大都市である札幌からもはなれている。

3　(1)①にわとり　②2　(2)**エ**

解説 (1)②127万tを70万tでわると約2倍になる。　(2)規模の小さい経営では，生産費が高くつき，安い外国産のちく産物と競争できない。そこで，生産の能率を上げるため，経営の大規模化がはかられた。比かく的大きな規模の農家が，ちく産をやめた農家の家ち